

役所での手続きなどについて、シリーズでお知らせします

学校支援地域本部事業

こんなときはどうするの？ 50

【問合せ】子ども・若者育成支援センター
(通称：子若センター)

☎7733-6611

少子高齢化が進み、地域社会の希薄化の声が聞かれる現在、地域のつながりや絆を高めながら未来を担う子どもたちの成長を地域全体で支える体制づくりが求められています。今までも地域がさまざまな形で学校を支援してきましたが、本事業を通じより多くの人から学習や行事の支援にボランティアとして参加いただくことで、学校と地域の結びつきを強めながら、ともに元気になっていくことを目的に実施しています。

Q 市内の全部の学校で実施しているのですか？

A 平成28年度までは、大崎小学校の「はなさき本部」のみで実施していました。平成29年度に塩沢地域の小中学校を対象とした「しお

ざわ本部」を、平成30年度に六日町地域の小中学校を対象とした「むいかまち本部」を設置し、各学校に地域コーディネーターを配置しました。各学校と地域の特色を生かしながら活動しています。令和元年は、大崎小中学校を含めた大和地域の小中学校を対象とした「やまと本部」の設置を進めています。

Q 地域コーディネーターを配置すると、地域からの学校への支援で何が変わるのですか？

A 今まで各学校の地域担当の教員が担ってきた地域ボランティアへの連絡調整などを、地域のことをよりわかっている地域コーディネーターが行っていくことで、学校と地域のつながりを高めていくことが期待できます。

地域住民：知識や経験を生かしながら、多くの人から学習や行事の支援にボランティア参加することで、やりがいや生きがいを持っていただき、新たな人と人の交流から地域活性化への一助

にもつながります。

児童生徒：多様な学びと経験ができ、親世代以外の多くの地域住民と触れ合うことで、その地域で学び、育つことをより意識しながら学校生活を送ることができま

学校：各学校と地域の特色を生かした授業や行事運営を行うことができます。教員業務の軽減にもつながり、子どもたちと向き合う時間が増えることにつながります。地域担当の教員が転任した場合などでも、地域との連携がとりやすくなりま

Q 地域コーディネーターは、どのような人がなっているのですか

A 現役や元PTAの保護者、元教員、地域づくり協議会の関係者など、さまざまです。学校に関する知見や、学校支援、地域づくりに積極的な思いを持っている人などに担っていただいています。学校によっては複数の地域コーディネーターを配置したり、小学校と中学校を兼務している人もいます。

Q 地域コーディネーターが行う業務をより具体的に教えてください。

A これまで各学校が直接連絡調整を行っていたさまざまな支援ボランティアの人たちを人材バンクとして整備し、学校からの要請に応じて連絡を取り、学習や行事への支援などの調整を行います。また、学校からの新たな要請や自らの提案によって、新たな支援ボランティアの発掘と学校支援の企画を行います。

地域コーディネーターは、県が主催する研修会への参加や、市が開催する研修会で他校の事例を学びながら地域コーディネーター間の連携を高めることで本事業の活性に努めています。

学習支援例：生活・家庭などの授業の教員の補助、米や野菜づくり、縄跳びなどの地域伝統文化の指導など

行事支援例：運動会、文化祭など準備・運営など

環境整備支援例：花壇の整備、敷地内の掃除など

交通安全指導例：交通安全教室の開催など

若者支援コミュニケーション・トレーニング 開催

【問合せ・申込み】

子ども・若者育成支援センター

☎7733-6611

「気持ちをつましく伝えられない」「対人関係を円滑に取れない」などの悩みや苦手感はありませんか？

少人数グループでゲーム感覚のコミュニケーションを体験します。いろいろな考え方や感じ方に触れながら、人と交流する楽しさを感じてみませんか。

日時 8月29日(木)

午後2時～3時30分

会場 子ども・若者育成支援センター2階音楽室

対象 市内在住の義務教育終了～39歳の人

締切り 8月27日(火)

申込み

電話でお申し込みください。